

弥五郎どん&PTA&「弁当の日」

曾於市立 大隅中学校

弥五郎どんの足あと

学校にほど近い岩川八幡神社で、900年以上の伝統を持ち、県下三大祭りのひとつ「弥五郎どん祭り」の時に、弥五郎どんの前で、太鼓を持つた生徒が跳ね踊り、祭りの雰囲気を感じて立っています。

思いを一つに PTAの連携

岩川小から、岩川高校へ続く道は「学園通り」と言います。

通りで結ばれる3校で、おやじの会による門松づくりが行われます。

高架橋をくぐるためにのけぞる「イナバウアー」を見ようと、見物人の興奮も最高潮に達します。

この祭りの中に、多くの生徒が様々な役割を持って参加してくれているのを見たとき、地域に根ざす教育の一端を垣間見た気がしました。

そんな大隅中学校入口に、大きな足跡のタイルが並んでいます。

学校の中へと続くその足跡に、開校当時の新しい歴史つくりと伝統の調和を図る思いを感じます。

本校では、生徒が使う記録『Y・A』をつくっています。これは、弥五郎どんの足跡からのネーミングで、自分の足跡を弥五郎どんのように強

大隅中学校は、岩川中・月野中・大隅北中・恒吉中が統合して、開校11年目を迎えました。新たな校風と歴史を創造しながらの取組を積み重ね、その上に落ち着いた雰囲気の中で、充実した学校生活を送っています。

大隅の地に誇りを持ち、確かな学力と生きる力を身に付けた生徒の育成に、保護者と地域と学校が力を合わせて教育活動を展開しています。

今回は、PTAとの連携を中心に、その一端を紹介いたします。

くたくましいものにしようという思いを込めています。

満々とした雰囲気、3校の連携を強く感じる場面のひとつです。

子どもがつくる「弁当の日」

本校では、昨年度から「弁当の日」に取り組んでいます。

これは、ご飯を炊いたりおかずをつくる体験を通して、親は大変な苦労をして、自分を育ててくれていることを知る学習です。また、食材になってくれた命や、それを加えてくださった方への感謝を感じる学習です。感謝に気づいた生徒の

また、3校PTAで行われるバレーボール大会も、白熱する中にも和気

行動が変わり、それまで手伝いなどしなかった子が、手伝いをするようになりました。

ようになります。はじめは、親が作った弁当を持ってくるだけだった生徒も、友人の弁当を見ていううちに、卵焼きをつくってみようかと思ったり、肉を焼いて



学級での弁当開き 互いの努力を認め合う瞬間です

「弁当の日」には、その学習のきっかけになるものが詰まっています。昨年度末のアンケート調査では、生徒の7割以上が、保護者では8割が、「弁当の日」は良かった」と答えています。

一方、生徒の3割弱、保護者では2割が「良くなかった」と答え、まだ十分理解してもらえない状況があります。

みたいと思ったり、弁当を作りたいと思うようになります。

親が、子どもに与えるべきものは、自分の命を守る術だと思います。「弁当の日」には、その学習のきっかけになるものが詰まっています。昨年度末のアンケート調査では、生徒の7割以上が、保護者では8割が、「弁当の日」は良かった」と答えています。

夢実現に チャレンジする生徒

曾於市教育振興基本計画の基本目標は「覇気に満ち、常に夢実現にチャレンジする児童・生徒の育成」です。

生徒が大きな夢を持ち、学校と家庭が連携してそれを支え、将来の日本を支える人材となるよう、地域の力も借りながら頑張っていきます。

(校長 上野 哲)



3校連合PTAの記念写真 各学校の門松前で撮影しました(大隅中学校で)